

評語付与方式

人事評価記録書(医師・医師級)例

評価期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日

被評価者 所属: 職名: 氏名:

期末面談 平成 年 月 日

1次評価者 所属・職名:	氏名:	1次評価記入日: 平成 年 月 日
2次評価者 所属・職名:	氏名:	2次評価記入日: 平成 年 月 日
確認者 所属・職名:	氏名:	確認日: 平成 年 月 日

(I 能力評価)

評価項目及び行動／着眼点	自己申告	1次評価者		2次評価者
	(コメント:必要に応じ)	(所見)	(評語)	(任意)
<倫理> 1 医師としての責任を自覚しつつ業務に取り組むとともに、服務規律を遵守し、全体の奉仕者として公正に職務を遂行する。				
① 責任感 医師としての責任を自覚しつつ業務に取り組む。				
② 公正性 服務規律を遵守し、全体の奉仕者として公正に職務を遂行する。				
<知識・技術・診療> 2 医学的知識・技術に基づき、適切な診療を行う。				
① 適切な診断 医学的知識・技術に基づき、適切な診断を行う。				
② 適切な治療 診断結果に基づき、適切な治療を行う。				
③ 知識・技術の向上 自助努力により知識・技能を向上させ、業務に発揮させる。				
<協調性> 3 上司・同僚等と協力的な関係を構築することができる。				
① 協調性 上司・同僚や他部局等の担当者と協力的な関係を構築する。				
② 説明 ポイントを整理し、筋道を立てて分かりやすく説明する。				
③ 上司への報告 問題が生じたときには、速やかに上司に報告をする。				
<患者等への説明・指導> 4 患者やその家族等と円滑かつ適切なコミュニケーションをとり、分かりやすい説明・指導を行うことができる。				
① 役割認識 患者やその家族と円滑なコミュニケーションを行うことができる。				
② 説明・指導 説明する相手方に対応した理解しやすい説明・指導を適切に行うことができる。				

【全体評語等】

1次評価者	2次評価者
(所見) (全体評語)	(所見) (全体評語)

評価期間	平成	年	月	日	～	平成	年	月	日
------	----	---	---	---	---	----	---	---	---

期首面談	平成	年	月	日
期末面談	平成	年	月	日

被評価者	所属:	職名:	氏名:
------	-----	-----	-----

1次評価者	所属・職名:	氏名:	1次評価記入日:	平成	年	月	日
2次評価者	所属・職名:	氏名:	2次評価記入日:	平成	年	月	日
確認者	所属・職名:	氏名:	確認日:	平成	年	月	日

(Ⅱ 業績評価)

【1 目標】

番号	業務内容	目標 (いつまでに、何を、どの水準まで)	困難	重要	自己申告 (達成状況、状況変化その他の特筆すべき事情)	1次評価者		2次評価者 (任意)
						(所見)	(評語)	
1	円滑な診察(外来)の実施	<ul style="list-style-type: none"> 患者に対して、病状・治療方針を適切に説明し、患者の家族も含めて相互の信頼関係を築いたうえで、患者の意思を尊重した医療行為を行う。 看護師等スタッフと毎日ミーティングを行い、重要な案件がある場合は、診療科内での情報共有を進め、早急に対応方針を決定する。 問診やカルテの記入方法の工夫やデータベース化等により効率的な診察を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 患者に病状・治療方針を適切に説明しており、患者の意思を尊重した医療行為が行えた。 ミーティングや打ち合わせを毎日行うことで、重要事例の早期把握と迅速な対応が行えた。 カルテ等の記載方法の工夫やデータベース化を進めることで、効率的な診察が行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者に適切な説明が行えており、患者の意思を尊重した医療行為ができていた。 ミーティング等を毎日行い、重要事例への迅速な対応が出来ていた。 カルテ等の記載方法の工夫やデータベース化を進めて、効率的な診察が行えていた。 	b	b
2	入院患者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者の病状を的確に把握するため、自ら回診を行うだけでなく、研修医、看護師に適切に指示するとともに、毎日ミーティングを行うことで情報を共有し、適宜・適切な治療を行う。 週△回、○○科との症例のカンファレンスを行い、重要事例に対して迅速に対応方針を検討する。 			<ul style="list-style-type: none"> ミーティング等を通じて、研修医や看護師とも情報共有を進め、適切な治療を行った。 ○○科との合同カンファレンスは、調整がつかず、実施されない週もあったものの、定期的を実施することにより、重要事例の早期把握と迅速な対応が行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 当直の際に、無断で外出したり、欠勤して、連絡が取れなくなることが複数回あり、入院患者やその家族から指摘されて、別の医師に急遽対応してもらったことが何度かあった。 ○○科との合同カンファレンスを定期的に行っており、重要事例への対応が概ね出来ていた。 	c	c
3	医療技術の向上 ・業務改善	<ul style="list-style-type: none"> □□についての事例を取りまとめ、事例研究会で発表することで、医師間の情報共有に努める。 医療用具の誤使用を防ぐために、○月までに使用手順をマニュアル化する。 受持患者の電子カルテを他科と相互に共有し、かつ、病院で使用している○○マニュアルや△△マニュアル等の必要なマニュアルを掲載した共有インフラを○月までに完成させる。 昨年度○件発生した針刺し事故について、看護師と連携して、針刺し事故防止のためのルールを△月までに設ける。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> □□についての事例をとりまとめ、院内の事例発表会でも説明を行ったことに加え、地域の医療従事者間で勉強会を開催して情報提供を行うなど、地域医療の向上に取り組めた。 医療用具の誤使用を防ぐための研究を進め、△月に使用手順のマニュアル化を行うとともに、保守管理用のチェックリストを作成して活用を図った。 ○月に共有インフラシステムが開設されたことにより、電子カルテや各種マニュアルの共有に役立っている。さらに、薬剤情報等もリアルタイムで確認できるよう、業者と調整し、システムを整備した。 針刺し事故防止のため、看護師との意見交換を実施。新たに注射器の取扱いルールや作業前点検事項について、△月に定め、院内へ情報提供を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> □□についての事例を取りまとめて院内の事例発表会で説明を行ったほか、地域の医療従事者に説明を行い、医師間の情報共有を行った。 医療用具の使用マニュアル及び保守管理用のチェックリストを作成し、医療用具等の適正使用を進めた。 ○月に共有インフラシステムを開設したほか、薬剤情報もリアルタイムで確認できるようにするなど、院内の必要な情報を見ることができている。 針刺し事故防止のための取組は、看護師と連携しながら計画的に遂行し、一定のルールを確立できた。 	a	a
4	※上記の記述はあくまで例示です。							

被評価者	所属:	職名:	氏名:
------	-----	-----	-----

【2 目標以外の業務への取組状況等】

番号	業務内容	自己申告 (目標以外の取組事項、突発事態への対応等)	1次評価者
			(所見)

【3 全体評語等】

1次評価者		2次評価者	
(所見)	(全体評語)	(所見)	(全体評語)